

## スサノオの意味するもの

サノオもインウン」の原義については早くも八世紀、新羅の大人から斐伊川を金大問(キムテムン)が解(しんかん。新羅の原形)釈している。それによると、「チャチャウン」とは「巫(こ)」のことを言い、「巫(こ)」の国学の権威本居宣長によつて、スサノオは本来辰韓(しんかん。新羅の原形)の主を意味すると喝破した。しかしこの爆弾発言は、時の

に住んでいる人なら誰でもよく目にする現象だと思つ

で到達したのである。

新羅からやって来た神々が、垂れ込める雲が空いっぱい

に覆い尽くした時など、ノオとインタケルを古代の

韓語で解釈しようとする

試みは、かねてから行われ

水平線の区切りは消え失せ、

海を極めればそのまま空へ

通ずるに違いないと、我々の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

「天(あま)くだる」は、

つまり「海(あま)くだる」

の先祖びとは認識した訳だ。

## 日替わり連載コーナー

古代日本人の感情なり観念としては、海も空も同じく「あま」であった。海辺

に河川から内陸へ向け廻るのだから、「海(あま)よりほる」が正しい表現となろう。従って、ス

に奉られている。「チャチャウン」の一方言「ススウ、ススン」などを見いだし、これが「スサ

## 五十猛神の真相に迫る

いそたけるのかみ

⑥

三井 淳

て、一つの集大成を見る。

この「チャチャウン」に着目したのが、藤原貞幹(とうげいかん。藤原貞幹。一七三三〜一七九七)という江戸時代の学者で、彼は

朝鮮半島の歴史書である三

「チャチャウン」の一方言

王号の一つに「次次雄(チャ

「ススウ、ススン」など

チャウン)」を挙げ、これ

は二代目の南解(ナムヘ)に

は二代目の南解(ナムヘ)

「ススウ、ススン」など

「チャチャウン)」を挙げ、これ

は二代目の南解(ナムヘ)に

「チャチャウン)」を挙げ、これ

は二代目の南解(ナムヘ)に

「チャチャウン)」を挙げ、これ

は二代目の南解(ナムヘ)に

「チャチャウン)」を挙げ、これ

は二代目の南解(ナムヘ)に

◇月曜日は島根県立図書館の「おす  
◇木曜日は内藤博之さんの「ガウデ